

五輪予選へ「順調」

アイスホッケー日本女子帰国

17日までチェコで行われたアイスホッケーの4カ国大会を3戦全勝で終えて帰国した女子日本代表（スマイルジャパン）が19日、羽田空港で記者会見し、平昌五輪最終予選（来年2月、苫小牧市白鳥王子アイスアリーナ）へ向け、山中武司監督は「順調な仕上がり」と手応えを示した。

十勝からはGK近藤真衣（24）IFルタイムシステム御影グレッズIF、DFの武田莉奈（23）IFスウェーデン・スツヴァールIFと志賀葵（17）IF帯広レディースIF、FW小野粧子（35）IFルタイムシテム御影グレッズIFの4選手が代表入りしている。

日本は最終予選D組で世

界ランキング最上位の7位。ドイツ（8位）、オーストリア（11位）、フランス（12位）と出場枠1を争う。

主将のFW大澤ちほ（道路建設ペリグリン）は「五輪で勝つためのステップ。相手を寄せ付けないくらい



帰国した日本代表女子チーム（前列左端が小野粧子、後列右から2人目が近藤真衣、同3人目が志賀葵）

の試合運びをした」と意気込みを見せた。来年1月28、29日には、カナダ女子リーグのカルガリー・インフェルノと同アリーナで強化試合を行う。